

昭和50年

● 1975 ●

第29回世界医師会東京総会が10月に開かれ、武見会長が世界医師会会長(任期1年)に就任した。

租税特別措置法の保険診療収入28%課税問題は、1月の政府予算案決定の際、三木武夫首相の裁断で見直しの見送りが決まった。

28%課税問題がきっかけで厚生省関係の審議会、協議会から委員を総引き揚げした問題は、新開発技術の保険採用問題で厚生省の譲歩を勝ち取り、6月に收拾して、日本医師会の委員は関係審議会に復帰した。

しかし、支払い側はこの間の日本医師会と田中正巳厚相との交渉経過を不満として、中央社会保険医療協議会(中医協)の再開に応じなかった。中医協は年内に実質的な審議が全く行われなかった。武見会長は11月に田中厚相と会談して、薬価基準の銘柄別収載方式への変更を求め、12月には日本医師会と厚生省の間で合意した。

### ● 租税特別措置法見直しの見送り

三木内閣は1月4日、政府予算案を決定する閣議で、租税特別措置法の保険診療収入28%課税の見直しを見送ることを決めた。昭和50年度の政府税制大綱に「次の診療報酬改定のとき同時に行う」と書き込まれた。次の診療報酬改定の際には是正に見合う改定を行い、租税特別措置法の保険診療収入28%課税をなくすということである。

### ● 新開発技術の保険採用問題

日本医師会は3月16日の常任理事会で、動脈間バイパス造成術などの新開発医療技術の保険適用について、「厚相の権限で実施しなければ、厚生行政に全面非協力とし、第1段階として予防接種に協力しない」と決定して、

厚相に申し入れるとともに、都道府県医師会長に通知した。あわせて、新開発技術についての医師会案の診療報酬点数表も公表した。

中医協の支払い側は「中医協無視だ」と反発した。



武見会長10選披露パーティーで挨拶する三木武夫氏(写真は昭和49年4月23日のもの、当時は副総理)

## ● 第56回定例代議員会

第56回定例代議員会は4月1日に、日本医師会館で開かれ、会務報告と質疑が行われて、予算や事業計画の可決、決算の承認が行われた。

武見会長は挨拶のなかで「委員の引き揚げは総辞退以上の固い決意のもとに行っている」と述べながら、「厚生大臣が我々が復帰できる条件をつくる努力をしている」と、近いうちに話し合いが見つく可能性を示唆した。

## ● 厚生省関係の委員会に復帰

日本医師会は4月に入り、「予防接種の非協力実行」を都道府県医師会長に指令する構えをとった。

このため厚生省は4月18日、保険局長通知で厚相の命による保険採用決定と新点数設定を関係方面に流した。武見会長は同日、厚生省の措置を評価する声明を発表した。

しかし同じ18日に、北川力夫保険局長が記者会見で「基本的には従来のやり方と変わっていない」と説明したため、武見会長は19日に、「医師会の受諾した条件を根底から覆す当局の意図が明らかになった」として、厚生行政への非協力体制を解かないことを明らかにした。

問題は、6月27日に田中正巳厚相が武見会長と会談し、厚生省事務当局の説明が適切を欠いたと釈明して決着した。日本医師会は6月28日、厚生省関係の審議会、協議会の委員の辞表を撤回した。

この問題では、中医協での差額徴収問題の検討に反対していた日本歯科医師会も2月から委員引き揚げに同調し、日本薬剤師会も足並みを揃えた。また、日本医師会の審議会復帰に合わせて、日本歯科医師会、日本薬剤師



三師会の「辞意撤回」を発表する田中厚相（6月27日）

会も、すべての辞任届を撤回した。

## ● 中医協、また審議中断

中医協は9月9日に、9か月ぶりに再開された。しかし、支払い側から「委員を総引き揚げた医師会が何の説明もしないのは納得できない」「厚相の就任前の中医協解体発言について説明を求める」との追及があり、支払い側は「納得のいく回答がない限り審議には応じられない」として散会を要求、次回日程を決められないまま、審議はまた中断した。中医協はこのあと、年内は開かれなかった。

田中正巳厚相は9月26日、支払い側委員を厚生省に招き、中医協正常化を話し合った。支払い側は、審議再開にあたって、

医療経済実態調査と薬価調査を実施する。

歯科差額問題に結論を出す。

今後、委員引き揚げなどの勝手な言動を繰り返さないよう、三師会会長から文書の確約をとる。

という条件を出した。

日本医師会は10月21日の全理事会で、「中医協は法律で存在しているから出席しているので、解体要求している以上、尊重する意図は毛頭ない」との態度を確認した。11月4日には、武見会長から田中厚相に、医療費の目減り是正のために診療報酬を緊急に引き上げるよう要望する文書を出した。



世界医師会会長就任の挨拶を述べる武見会長（上は会場風景）

● 世界医師会東京総会

第29回世界医師会東京総会は10月6日から10日まで、東京の帝国ホテルを主会場に行われ、武見会長は世界医師会会長に就任した。大会開催国の医師会会長が自動的に就任するもので、任期は1年であった。

● 薬価基準，銘柄別収載方式に

武見会長は11月19日，田中厚相と会談し，薬価調査では優良医薬品が値崩れから市場に出回らなくなるような事態を防ぐ。

同一成分でも優良な医薬品とそれ以外とは薬価に差をつける。  
との2点を申し入れた。このあと担当常任理事と厚生省事務当局との話し合いが続けられて、12月5日に、  
銘柄別薬価収載方式をとる。  
薬価調査の実施月は薬品取引の状況を勘案して、厚生省が判断する。  
との合意が成立した。

田中厚相は12月15日に、支払い側委員と会談して医師会との合意を説明したが、支払い側は「薬価調査の方法は中医協で決めるべきものだ」などと不満を表明した。武見会長は12月18日，中医協の不当な行政介入を非難する声明を発表した。

● 診療報酬引き上げ9.1%を予定

政府は12月31日，昭和51年(1976)度予算案を決定したが，中医協での審議再開を見込んで，診療報酬の引き上げ幅として9.1%の財源を見込んだ。